

「災害とともに生きるということ」

～復興デザインのために、いま考える

東日本大震災発生からすでに 600 日が過ぎる。防潮堤や高台移転計画の具体的な像が結ばれ、現実の造形にも着手されている。一刻も早くと求められる復興に注がれるエネルギーは計り知れない。

しかし、そこには不安や疑問の声も尽きない。土木学会第 8 回景観・デザイン研究発表会に合わせて開催する本シンポジウムでは、復興の仕事の怒涛渦巻く仙台に、長い実践経験を積まれてきた識者の方々をお招きして、完全に避けることなどできない災害を見つめ、なお心豊かに生きるためのしっかりとした視座を語っていただく。

ひととき皆さんと耳を澄まし、何かを見つめ直す場としたい。

■ 日時：11月30日(金)13:10-16:00

■ 会場：仙台市戦災復興記念館

参加費無料

プログラム

■ 開 場 12:45

■ 開 会 13:10

■ 基調講演 「災害の見方・過去からの学びと現在の危機」

高橋 裕 (東京大学名誉教授 日仏工業技術会会長)

■ 鼎 談 「豊かな日常を生きるための災害観～復興デザインの思想のために」

内山 節 (哲学者 立教大学教授 NPO法人・森づくりフォーラム代表理事)

篠原 修 (東京大学名誉教授 政策研究大学院大学名誉教授)

高橋 裕 (前掲)

■ 閉 会 16:00

■ 申込締切：2012年11月26日(月)(会場での当日参加申込み承ります)

■ 問合せ先：土木学会 二瓶 貞洋 TEL：03-3355-3559 / FAX：03-5379-0125

E-mail：snihei@jsce.or.jp

主催 土木学会 景観・デザイン委員会

(<http://www.jsce.or.jp/committee/lsc/conference/index.html>)

プロフィール

■高橋 裕 (たかはし ゆたか)

1927年静岡県生まれ

東京大学名誉教授、日仏工業技術会会長

東京大学教授、芝浦工業大学教授、世界水会議(WWC)理事、国際連合大学上席学術顧問を歴任。

「川と国土の危機—水害と社会」岩波新書 2012年9月他著書多数。



■内山 節 (うちやま たかし)

1950年 東京都生まれ

哲学者、立教大学教授、NPO法人・森づくりフォーラム代表理事

群馬県の山村、上野村と東京の二重生活をしている。

最近の本に『ローカリズム原論』『文明の災禍』など。



■篠原 修 (しのはら おさむ)

政策研究大学院大学教授 東京大学名誉教授、GS デザイン会議代表、エンジニア・アーキテクト協会会長。専門は景観デザイン、設計・計画思想史。

設計指導・監修は勝山橋、朧大橋、日向市駅・駅広など各賞受賞歴多数。「土木造形家百年の仕事」、「土木デザイン論」共に土木学会出版文化賞受賞他著書多数。



会場ご案内

仙台市戦災復興記念館

〒980-0804

宮城県仙台市青葉区大町2丁目12番1号

TEL. 022-263-6931

アクセス

- ・タクシー 仙台駅西口から約5分。
- ・地下鉄 仙台駅から泉中央行きで1分、広瀬通駅で下車。西4番出口から徒歩10分。
- ・バス 仙台市営バス、仙台駅西口バスプールのりばから7分、東北公済病院・戦災復興記念館前で下車し、徒歩2分。
 - 10番のりば—茂庭台、折立/西花苑行(西道路経由)
 - 15番のりば—全路線
 - 16番のりば—川内営業所行(広瀬通経由)
- ・徒歩 仙台駅西口から約25分。

